

11月号パラパニュース

特定非営利活動法人日本パラ・パワーリフティング連盟

事務局：〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2-4F

電話：03-6229-5423、FAX：03-6229-5420

メール：jppf.jimu@gmail.com

ホームページ：http://jppf.jp/

□ テストイベント（写真：西岡浩記）

9月26-27日、東京パラリンピックのテストのための大会ということで、東京パラと同じ会場である、東京国際フォーラムAホールでパラ・パワーリフティングのワールドカップが開催された。文字通り、東京2020組織委員会が「テスト」したい項目だけをテストするため、観客なし、プレゼンテーションなしで、大会は開催された。二日間全部で100名以下の参加しか許されないということで、世界各国に一国4名以下の選手の参加を呼び掛けた。その結果、12か国から67名の選手の募集があった。欠場選手も出て、最終選手数は58名となっ



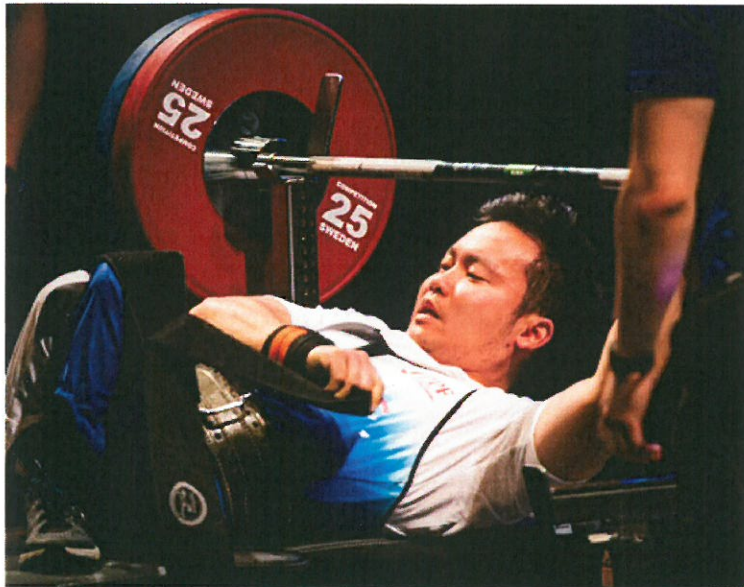
東京国際フォーラム広場（写真左上）、東京駅から徒歩10分、有楽町駅前と、交通の便の良い立地、日本で最大規模の劇場で集客力は5000人。パラ本番の集客が大きな課題だ。舞台（写真右上）、アップ場（写真左下）、練習場（写真右下）





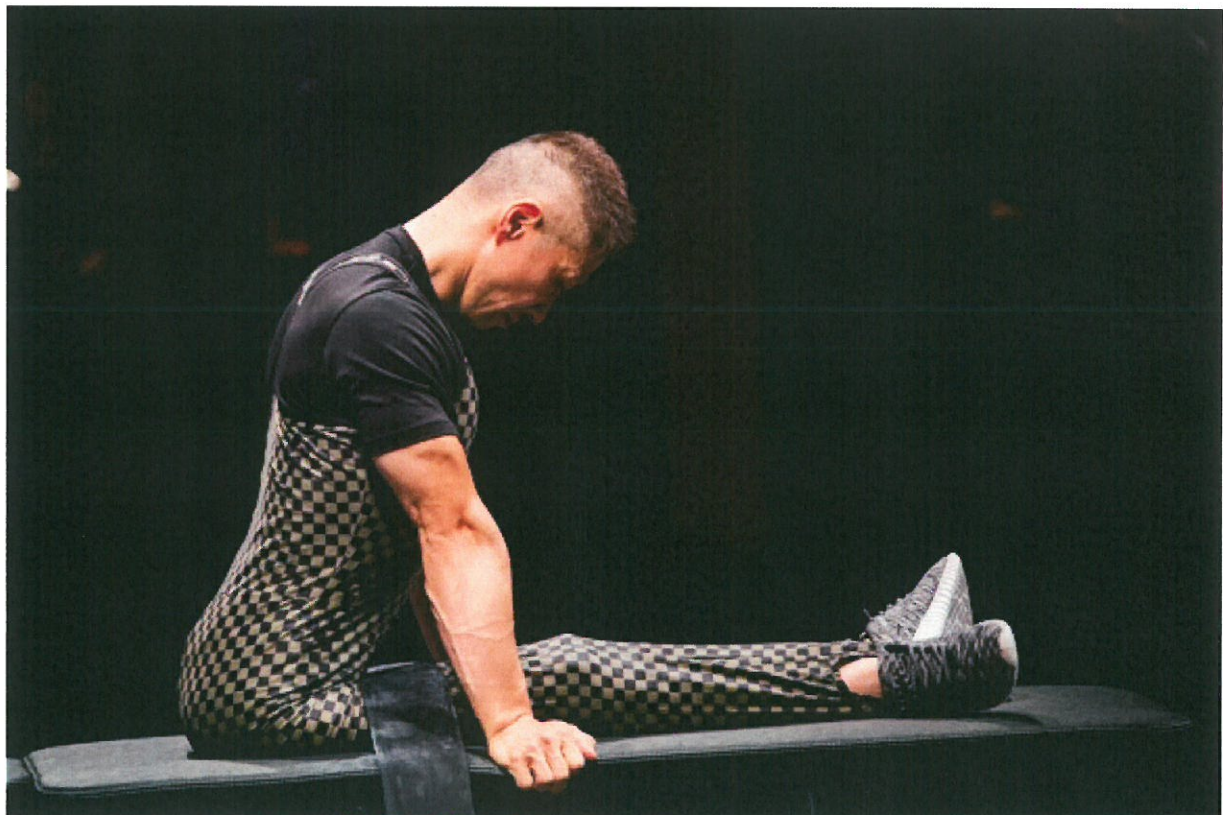
男子49kg級

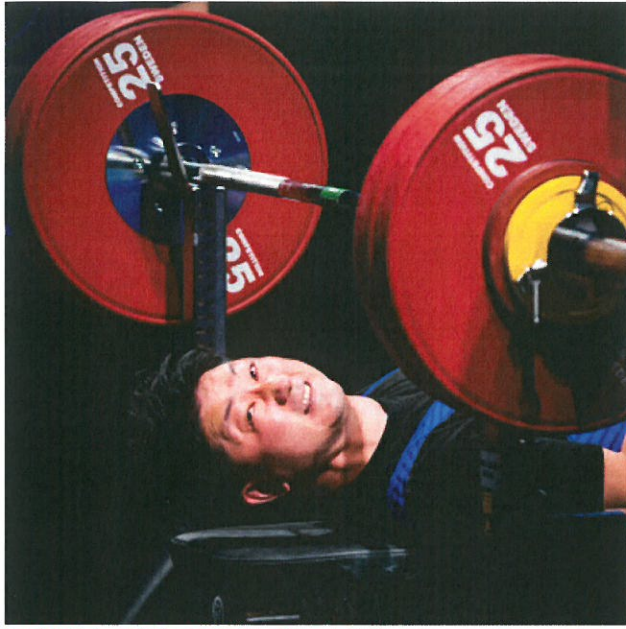
54kgでパラリンピックではおなじみのメンバー、韓国のチョイ選手、日本の西崎選手（乃村工藝社）が二人とも、49kgにエントリー。チョイ選手は147kgを上げて、ほぼパラ参加を確実にしたようだ。ラオスのピア、日本の西崎選手は、現在、パラランキングギリギリのライン、これから、残りの大会で、パラランキング上昇を目指して、仕上げてくることだろう。このクラス、ロンドン、リオ都連続出上の三浦選手（東京ビックサイト）が欠場、2020年に入って、三浦選手がどのような記録を出してくるのか、ピア選手、西崎選手ともに、それぞれの活躍が注目される。大幅ランキングアップを目指した日本の加藤選手（豊田市役所）（写真左中）は、残念ながら失格。普段通りの試技ができていれば、「白」を貰える力をつけている。普段通りの力を出すには、何が課題か、新たな問題解決を抱え、2020年度に向かう。



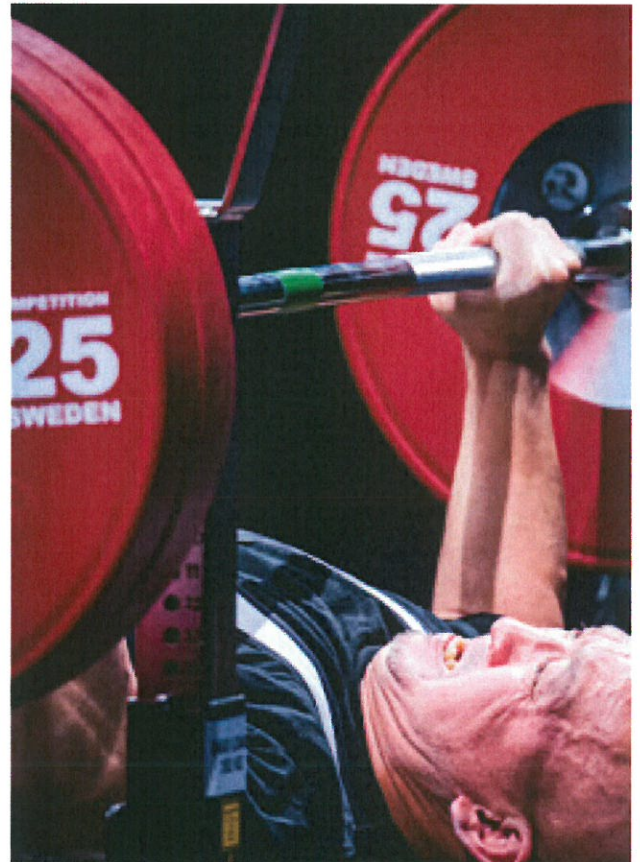
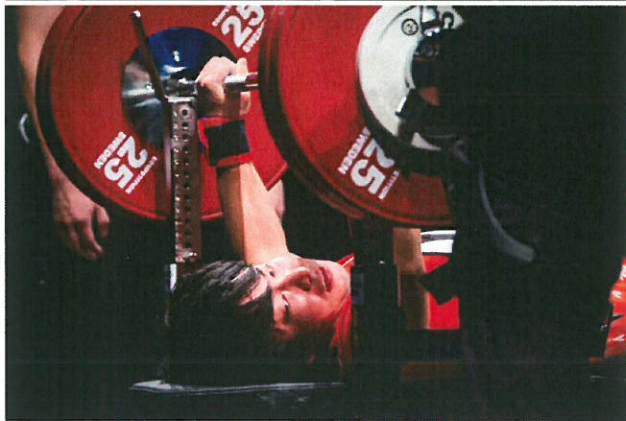
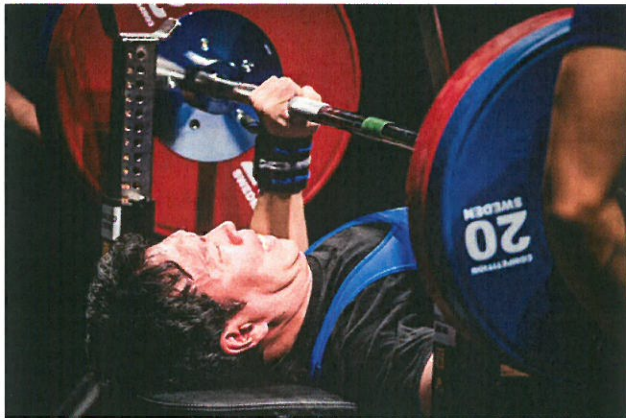
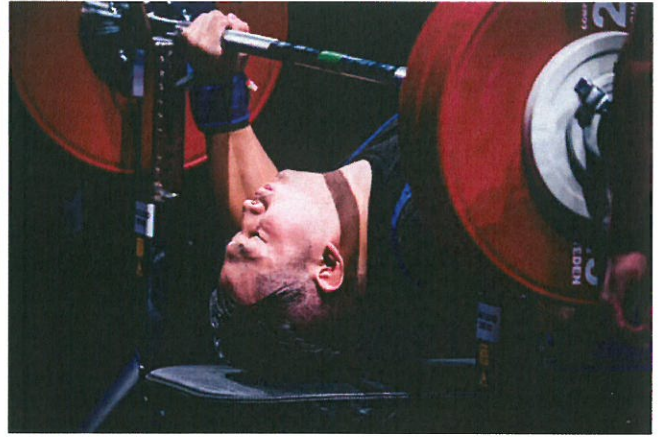
男子54kg級

怪我を押して、出場した市川選手（写真下）、133kgを上げて、ランキングアップに成功した。優勝は、フランスのアクセルで161kg。このクラスパラランキング10位であったが記録を伸ばし7位に食い込み、東京パラを確実にしたか？



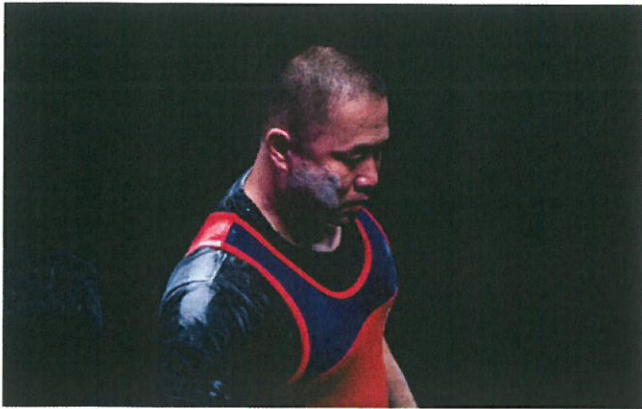


男子65kg級初挑戦の奥山選手(写真下上)(順天堂大学)が136kgのパラ標準を突破して二位となった。優勝は、米国ラルゴ選手で140kg。三位は、城選手(写真下中)133kg、四位は佐野選手(写真下下)(EY日本有限責任監査法人)で130kgをマークした。



男子59kg級は、日本人選手の戦いとなった。優勝は北海道庁勤務の戸田選手(写真上)、記録的には、140kgの大台を期待していたが、残念ながら128kgにとどまった。二位には、丁寧な試技で、岡田選手(写真中)(電通国際情報サービス)が115kgを上げて入った。このクラス、記録を急激に伸ばしてきた光瀬選手(写真下)(株式会社アソウ・アルファ)が、戸田選手の持つ日本新記録を破るか期待されたが、試技の不安定さが出て、失格。本人は、「思い当たる節がある」と、言っているので、次の試合では、ぜひ、戸田選手に挑戦してもらいたい。





男子72kg級

優勝の樋口選手（写真左上）には、ランキングを上げて、パラ当確に当たる8位以上を目指してもらいたかったが、175kgの日本記録樹立にとどまった。180kgも重くはないが、スティッキングポイントでバーがアンバランスになる。今後は、このスティッキングポイントをいかに克服するかが、パラに選考される為の大きな課題となりそうだ。二位には、イタリアのジュニア選手が171kgをマークして入った。特別試技で、世界ジュニア記録の182kgに挑んだがこちらは、惜しくも失敗となった。三位には、日本の斉藤選手（写真左中）が146kgをマークして入った。斉藤選手は、無意識かもしれないが、スタートの合図の後、胸にバーを下すときに指を開く癖があるようだ。最初の位置から体の状態を変えてはいけない、というボディシークエンスを取られて、赤を貰っていたので、本当に、惜しい赤判定だった。内田選手（写真左下）は、スタートの90kgがとても軽いのだが、主審がお尻を付ける前に「スタートの合図」を送ってしまい、なんと納得のいかない失格となってしまった。後で、主審に話を聞くと、主審は、スタートの位置が完了したので、スタートの合図を送ったといていた。健常者のようなアーチのできる内田選手は、主審からみると、どうやら、足の動きが胸に視野が阻まれてしまうのか、まだ、お尻がついていないなど夢にも思わなかった、と、言っていた。陪審員が主審を呼んで注意し、3試技目はお尻がついてからの合図となったが、残念ながら試技は失敗となってしまった。



80kg級

宇城選手（写真下）（順天堂大学）が、179kgをマークして、パラランキングを上昇させた。昨年のアジア大会で突然力

を出せなくなったが、地道に力を毎回伸ばし、一年かけてほぼ、力が戻ってきた。後、2回のチャンスを必ず物にして、東京パラ参加を掴んでもらいたい。優勝はジョージアの選手が183kg、二位はイギリスのミッキー選手で181kgをマークした。イギリスチームは、テストイベント一週間以上前に来日し、日本で練習して、このテストイベントに臨んだ。他の国の仕上げ方を見るのは、大変参考になり、この後、日本選手にフィードバックしていきたい。





男子88kg級では、大堂選手（写真上、SMBC日興証券株式会社）が190 kgで優勝した。練習直前で肩の痛みを訴え、今回は、軽く出る、と、言っていたのが、最後にぐぐーっと調子上がり、自己ベストタイとなる197 kgもしっかりと押せた。残念ながら赤判定になってしまったが、あと二回のチャンスで、8位以内の東京パラ参加を獲得してもらいたい。このクラス3位には、石原選手（写真上、オリンパステルモバイオマテリアル株式会社）が140 kgで入った。シドニーパラリンピック車いすバスケット日本代表ですでにパラリンピアンだが、さらに、二種目パラリンピアンを目指す。

97 kg級

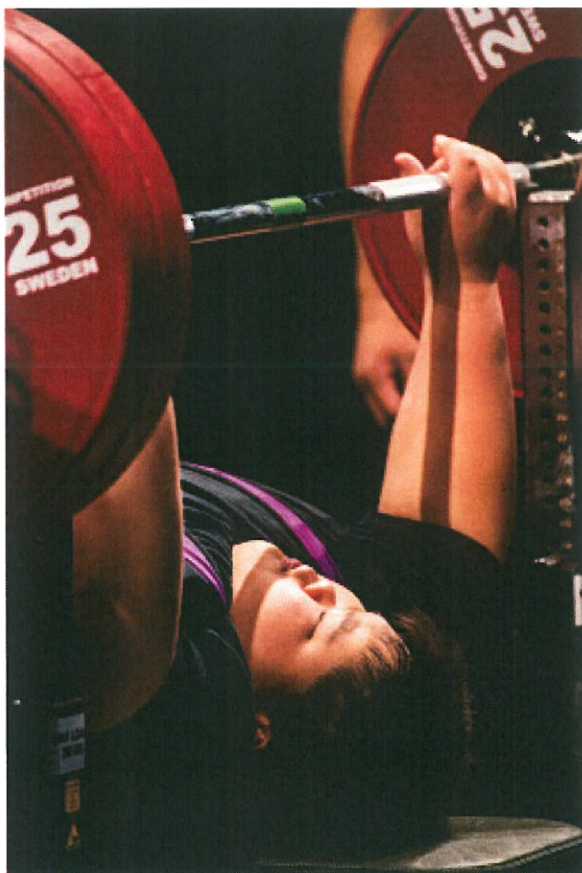
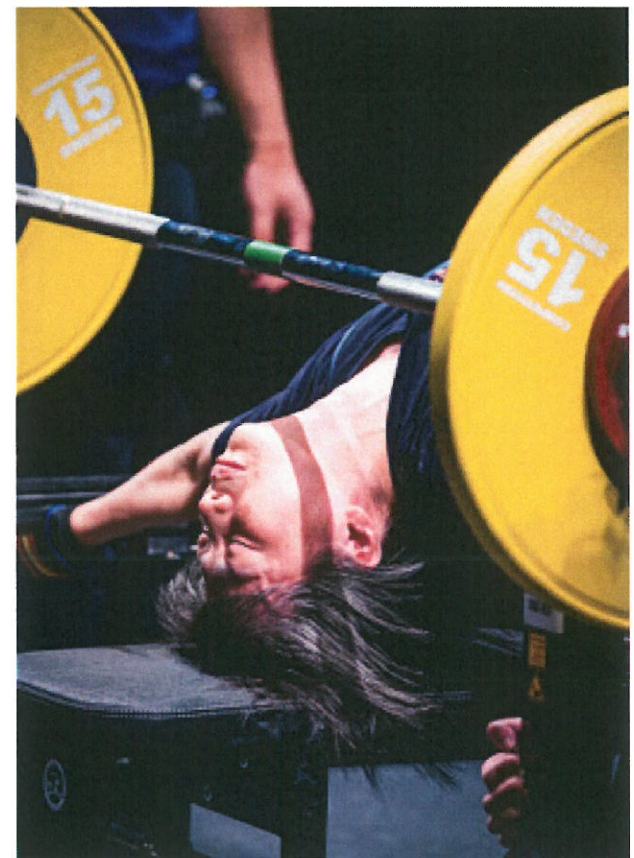
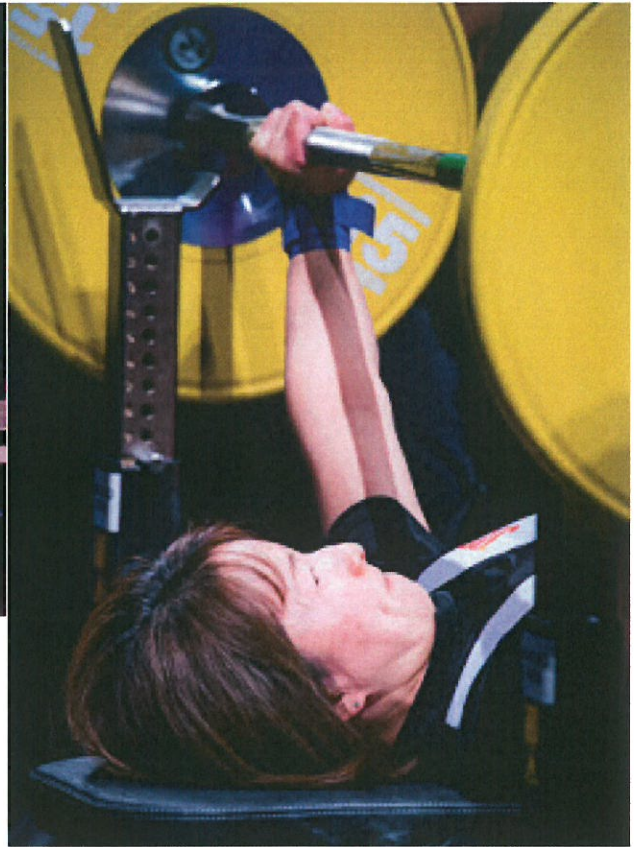
石原選手と同じく、冬季オリンピック、パラアイスホッケー銀メダリストの馬島選手（写真左）（日本オラクル株式会社）がこのクラス154 kgで優勝、二位には、このところ力をつけてきている南出選手（写真下）が150 kgで入った。



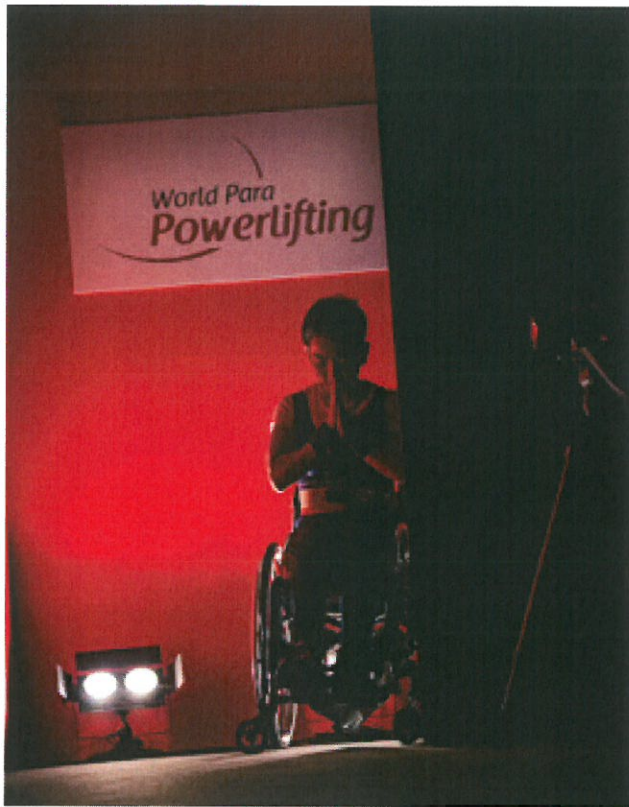


男子107kg級では、更なるランキングアップを目指した中辻選手（写真上）（日鉄環境プラントソリューションズ株式会社）だったが、194 kgを三回目に成功させ2位となった。原因は分かっていると、次回は克服してランキングアップを図ってもらいたい。写真上は、表彰台が自動で上がり、1, 2, 3位に段差を作るシステム。ぜひ、東京パラでもこの表彰台を使っていたきたいが――。

男子 +107 kg級では、松崎選手（写真下）が、3本成功させ、145 kgで4位に入った。



女子41kg級では、成毛選手（写真上上）（Apresia systms 株式会社）が肩の調子が悪く、残念ながら失格。45kg級では、小林浩美選手（写真上下）が57 kgに成功して、優勝した。



女子50kg級

集中を見せる中嶋選手(写真左)。4月のチャレンジカップあたりから、着実な基礎固めが終わり、力にピークが出始めてきた。スタートはベストタイの58kg。これを難なく、きれいな試技でクリアすると、迷わず62kgを選択。これは、このクラスパラリンピック標準記録。自分を信じ、これ挑み、見事成功。パラリンピック標準突破者の女子一人目となった。3回目の64kgは失敗であったが、まだまだ記録を伸ばすだろう。このクラス優勝は、スペインのロイダ選手で93kgをマークし、東京パラ出場を確実にした。

女子55kg級

中嶋選手と同じく、基礎固めを終え、ピークに向かって挑戦する山本選手(写真下、日本財団パラリンピックサポートセンター)目標は、65kgのパラ標準突破することであったが、2本目を傾きを取られて失敗、パラ標準突破は諦め世界標準を突破することを目指して63kgを選択、これを着実に決めて、このクラス優勝した。

また、このクラス、新人からじわじわと力をつけ、4月のチャレンジカップでは、山本選手に迫った、中村光選手。夏の間に、体調を崩してトレーニングできなかったことが響き、残念ながら、失格となってしまった。実力のある選手なので、ぜひ、続けて試合に挑戦してもらいたい。

当初、東京パラは、男子8名、女子6名、残り40をバイパルタイト(各国から出される補欠申請)で参加者を決めると、発表されていたが、「男女同数」を目指すIPCの方針で、男子8名、女子8名、残り20をバイパルタイトで参加を決めることとなった。したがって、女子のパラリンピックへの門戸がグーっと広がり、残り半年、選手の皆さんの競技力向上に期待し、パラリンピックに初めてパラパワーから女子を送りたいものだ。





女子61kg級

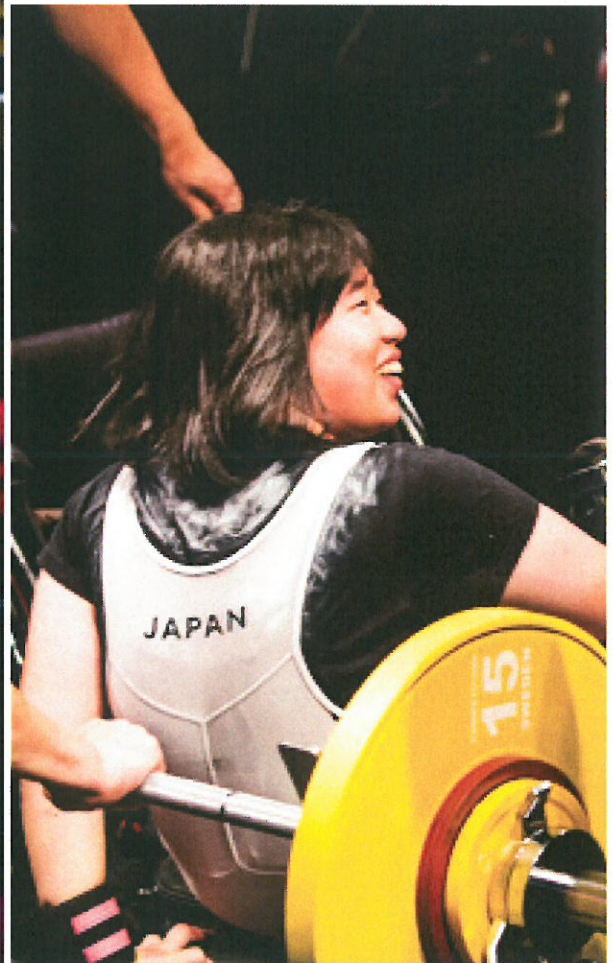
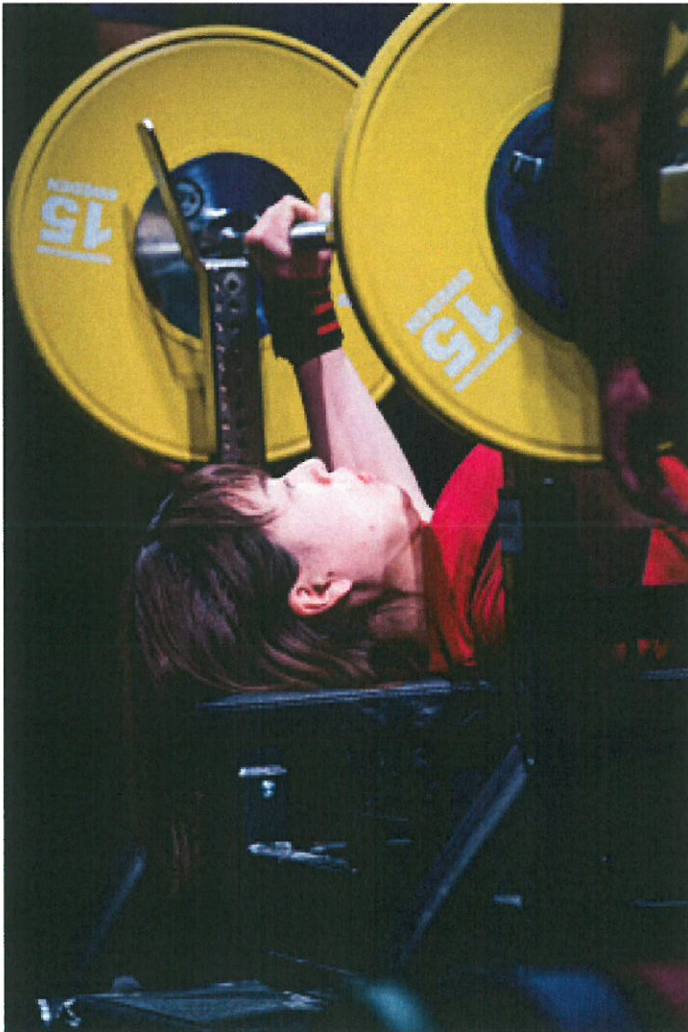
日本の龍川選手と水江選手の一騎打ちとなった。このクラス、まず、水江選手が56kgでスタートし、龍川選手の54kgを2kg上回る。第二試技では、龍川選手57kgに失敗。水江選手（写真左下）が58kgの日本新記録を樹立。第三試技では、龍川選手が同記録体重差で水江選手を上回る作戦で、58kgを選択、これを見事成功させ満面の笑顔を見せる。（写真左）

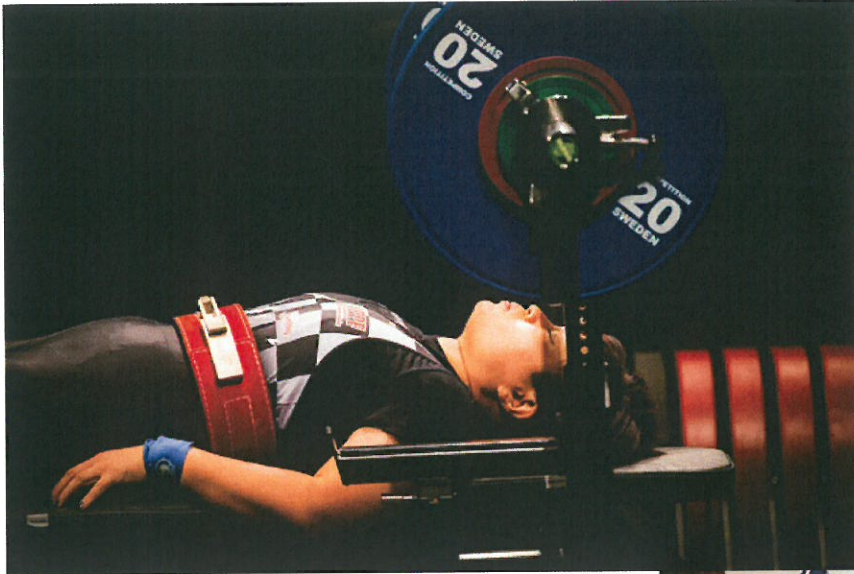
続いて、水江選手が龍川選手に勝つことと、日本新記録を奪還すべく、59kgに挑む。こちらは惜しくも失敗。水江選手は2位となる。これからも、二人の戦いで、二人で記録を伸ばしていただきたい。

女子67kg級

カザフスタンで60kgで白を貰えず、涙にくれた森崎選手が60kgを楽々、完璧に取って、日本新記録を樹立し、笑顔で答える。（写真右下）若干16歳。現在のこの年齢区分の世界参加標準を突破。年が明けると、上の年齢区分になるので、67kg突破という新たな目標が生まれる。高校生なので、学業もおろそかにできず、合宿中でも試験勉強をする真面目さは、パラ・パワーリフティングという競技に非常に向いていると思う。長い目で、頑張っていたきたい。

明けると、上の年齢区分になるので、67kg突破という新たな目標が生まれる。高校生なので、学業もおろそかにできず、合宿中でも試験勉強をする真面目さは、パラ・パワーリフティングという競技に非常に向いていると思う。長い目で、頑張っていたきたい。



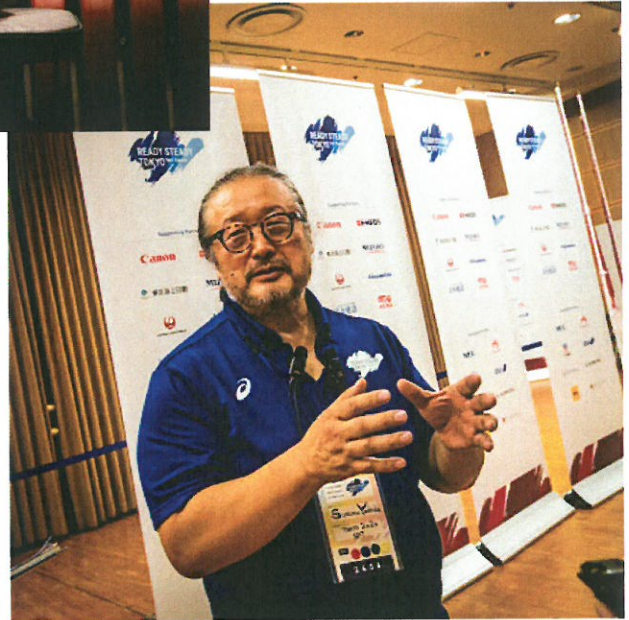


女子 73 kg級

坂元智香選手（写真左）（医療法人メディケアアライアンスあおぞら病院）は、1, 2と失敗。いつも失敗したことの無い、ドカンとバーを胸に下す、ボディークエンスで赤判定。落ち着いて、集中して、三本目に見事 72 kgのパラリンピック標準突破に成功、このクラス2位となった。

選手の皆さんの好記録に、ほっとした連盟理事長（写真右）。同時に東京 2020 のスポーツマネージャーでもあり、今回の反省を本番の東京で生かすべく、日々200通を超えるメールに対応し、時間がいくらあっても足りない、日々を送っている。働き方改革とはいえ、残り1年しかなく、山積みの課題の中で、1つ1つ解決していかない事には、東京パラの成功はない。東京パラリンピックとの格闘は続く。

写真下は、アトウンのアシストスーツを着用する、スポッターローダーと本大会最重量体重（170.93 kg）のUSA、マーチン選手とコーチ。アシストスーツは、競技団体とテクノロジーのコラボという観点で東京 2020 で注目を浴びることだろう。



READY STEADY TOKYO – パワーリフティング

2019.9.26 (木) ~ 9.27 (金) @東京国際フォーラム ホールA

階級	国	氏名		所属	年齢	検量結果 体重	試技			特別試技 4th	大会結果			
							1st	2nd	3rd		記録	順位		
男子	49Kg級	KOR	Choi	Keun Jin		42	48.41	145	147	147		147	1	
		LAO	Laophakdee	Pia		29	48.55	128	128	132		132	2	
		日本	西崎	哲男	株式会社乃村工務社	42	48.1	126	130	132		130	3	
		日本	加藤	尊士	豊田市役所	31	48.91	116	116	116			失格	
		日本	三浦	浩	株式会社東京ビッグサイト	54	欠場							
	54Kg級	FRA	Bourlon	Axel		28	53.54	156	161	161		161	1	
		GBR	Jawad	Ali		30	53.79	145	147	148		147	2	
		日本	市川	満典		45	51.78	127	133	133		133	3	
	59Kg級	日本	戸田	雄也	北海道庁	37	58.5	128	133	133		128	1	
		日本	岡田	有史	株式会社電通国際情報サービス	43	58.5	110	115	115		115	2	
		日本	光瀬	智洋	シーズアスリート (株式会社アソウ・アルファ)	26	57.83	130	135	135			失格	
	65Kg級	USA	Largo	Christian		20	64.15	132	138	140		140	1	
		日本	奥山	一輝	順天堂大学	22	60.81	129	135	136		136	2	
		日本	城	隆志		59	63.89	133	133	136		133	3	
		日本	佐野	義貴	EY新日本有限責任監査法人	51	63.33	130	135	135		130	4	
	72Kg級	日本	樋口	健太郎		46	70.85	175	180	180		175	1	日本新記録
		ITA	Telesca	Donato		20	71.61	171	171	182	182	171	2	
		日本	斉藤	伸弘		52	71.42	140	146	151		146	3	
		日本	内田	基哉		51	69.05	90	90	90			失格	
	80Kg級	GHA	Oku	Emmanuel Nii Tetley		28	欠場							
GEO		Razm Azar	Ahmad		27	75.93	175	183	187		183	1		
GBR		Yule	Micky		40	77.08	175	179	181		181	2		
日本		宇城	元	順天堂大学	46	78.63	174	179	181		179	3		
ITA		Cattini	Matteo		35	78.24	166	170	170		170	4		
KGZ		Argymbaev	Maksat		33	79.07	160	166	167		160	5		
FRA		Avom Mbume	Julien		24	78.78	170	170	172			失格		
男子	88Kg級	GHA	Dzanku	Harrison		37	欠場							
		日本	大窪	秀樹	SMBC日興証券株式会社	44	84.07	182	190	197		190	1	
		FRA	Arabat	Rafik		28	87.46	190	198	198		190	2	
	97Kg級	日本	石原	正治	オリンパスヘルモバイオマテリアル株式会社	47	85.61	140	145	145		140	3	
		日本	馬島	誠	日本オラル株式会社	48	95.9	153	153	154		154	1	
		日本	南出	悠有		34	94.08	140	150	154		150	2	
		GAM	Gamo	Modou		33	欠場							
	107Kg級	日本	佐藤	和人		39	欠場							
		USA	Schrom	Jacob		31	102.78	195	202	206		202	1	
		日本	中辻	克仁	日鉄環境フロンティアソリューションズ株式会社	49	105.22	194	194	194		194	2	
		KOR	Jung	Sung Yun		35	97.26	170	175	180		180	3	
	107Kg超級	KGZ	Orosbaev	Zhyrgalbek		26	105.6	200	200	200			失格	
KOR		Chun	Keun Bae		41	151.83	210	221	227		221	1		
GEO		Gorgodze	Iago		42	111.01	190	200	210		200	2		
KGZ		Kamchybekov	Adilet		27	109.76	165	175	180		175	3		
日本		松崎	泰治		20	133.2	134	140	145		145	4		
USA		Martin	Antonio Deandre		30	170.93	227	227	227			失格		
GHA	Haruna	Tahiru		25	欠場									

READY STEADY TOKYO – パワーリフティング

2019.9.26 (木) ~9.27 (金) @東京国際フォーラム ホールA

階級	国	氏名		所属	年齢	検査結果	試技			特別試技	大会結果			
						体重	1st	2nd	3rd		4th	記録	順位	
女子	41Kg級	IND	Khatun	Sakina		30	40.22	86	86	91		86	1	
		LAO	Sipascuth	Latsami		32	39.59	61	61	61		61	2	
		日本	成毛	美和	APRESIA Systems 株式会社	50	40.83	54	54	54		失格		
	45Kg級	日本	小林	浩美		50	43.34	57	57	60		57	1	
	50Kg級	ESP	Zabala Ollero	Loida		32	49.39	90	90	93		93	1	
		日本	中嶋	明子		43	48.89	58	62	64		62	2	
	55Kg級	日本	山本	恵理	日本財団 パラリンピックサポートセンター	36	54.39	60	63	63		63	1	日本新記録
		日本	中村	光		28	51.74	48	48	48		失格		
61Kg級	日本	龍川	崇子		43	59.42	54	57	58		58	1	日本新記録	
	日本	水江	加奈子		31	59.98	56	58	59		58	2		
女子	67Kg級	KOR	Kim	Hyeong Hui		45	66.11	100	105			105	1	
		KOR	Hwang	Yuseon		23	65.48	75	80	83		75	2	
		IRL	Dore	Nicola		31	61.81	62	65	67		65	3	
		日本	森崎	可林		16	66.52	55	60	63		60	4	日本新記録
		IRL	Arendse	Britney		19	欠場							
		GHA	Antwi	Vida		37	欠場							
		GEO	Sabashvili	Nino		38	欠場							
	73Kg級	FRA	Ghazouani	Souhad		37	72.42	105	108	113		113	1	
		日本	坂元	智香	医療法人 メディケアアライアンスあおぞら病院	37	72.17	69	72	72		72	2	
	86Kg級	GBR	Sugden	Louise		35	84.11	116	121	122		122	1	
		KOR	Lee	Youngsun		51	83.93	100				100	2	
86Kg超級	KOR	Lee	Hyunjung		33	108.13	105	110	113		113	1		
	USA	Dyce	Ashley		32	122.85	107	110	110		失格			

表彰ルール

- その階級に、出場選手が二人の場合、表彰はゴールドメダルのみ。
- その階級にエントリーが1名の場合、表彰されるためには、事前にIPCが発表する記録を、その選手の大会結果が、上回っていないなければならない。(今大会では女子45Kg級 <52Kg以上の記録を出せば表彰>)
- 同記録の場合、検査結果の軽い方が順位が上。